

# 「女性学と男性学」

<p>第1回 5月19日(金) 14:00~15:30</p>	<p><b>男性学の提起する諸問題</b> <span style="float:right">文学部英文学科 准教授 高村 峰生</span> 男性学への注目が集まっています。「イクメン」という言葉に象徴されるように育児に積極的な男性が賞賛される一方で、「大黒柱」として収入を得て家庭を支える役割への期待もいまだ大きいものがあります。また恋愛や結婚に消極的な男性の「草食化」がしばしばメディアに取り上げられ、「男性」のあり方が大きく揺らいでいます。連続セミナー全体の導入として最近の研究や小説を取り上げながら、いま「男性」であるとはどのようなことなのかを考えてみたいと思います。</p>
<p>第2回 5月26日(金) 14:00~15:30</p>	<p><b>J-POPに反映された若者たちのゆくえ</b> <span style="float:right">文学部総合文化学科 教授 難波江 和英</span> 「男尊女卑」から「男女平等」へ。戦後の世相の移り変わりに伴って、「『男＝強者』vs.『女＝弱者』」という神話は崩壊しました。しかし同時に、そのころを境にして、日本の若者たち（男女共）は、親しい関係（特に「恋愛」）を形成するための時代の語り口（言説）を失ったように見えます。そういう状況の中で、彼らの語り口と、そこから生まれる相互の関係性はどのように変化していったのでしょうか。それを1970年代の吉田拓郎や井上陽水の歌から説き起こし、1990年代以降のJ-POPの歌詞から読み解こうと思います。</p>
<p>第3回 6月2日(金) 14:00~15:30</p>	<p><b>生物学から見るメスとオス</b> <span style="float:right">人間科学部環境・バイオサイエンス学科 教授 遠藤 知二</span> 生物学の立場から性に関する問題を論じた著作はたくさんあります。性そのものがなぜあるのか、またかくも多様な性のあり方がなぜ存在するのかは、生物学とくに進化生物学にとっては、大問題だからです。それを知ることは、社会的な問題の解決にはおそらく大して寄与しないかもしれませぬ。しかし、生物学が問いかける問題の地平を理解し、地球上の生物が示す多様な性のあり方を知ることは、人間の性の問題を広い視野のもとで考える機会を提供するでしょう。</p>
<p>第4回 6月9日(金) 14:00~15:30</p>	<p><b>「ジェンダーレス男子」が拓く明るい未来？</b> <span style="float:right">文学部総合文化学科 准教授 奥野 佐矢子</span> 体重40キログラム弱、お肌のお手入れ時間は2時間以上、お気に入りのコスメは〇〇、女性もののファッションを取り入れるのもお手の物・・・そんな「女子力高っ！！」と思わずのけぞってしまいそうな「男子」たちがいま、じわじわと市民権を得ています。彼らを総称してつけられた名はずばり「ジェンダーレス男子」。その名のとおり「性別の壁を超えた美しさをもつ」「新しいタイプのイクメン」とされる彼らは、「男らしさ」「女らしさ」のステレオタイプを超え出て、新しい可能性となりうるのか。ともに考えましょう。</p>

【受講資格】 一般成人・学生    【受講料】 無料    【申込】 事前申込不要



**【会場】**

神戸女学院大学 ジュリア・ダットレー記念館  
104教室(JD-104)  
建物の入り口は2階になります。  
会場は、階段を下りた1階です。

**【交通機関】**

阪急「門戸厄神」駅下車、西へ徒歩約15分  
マイカーでのご来場はご遠慮ください。  
タクシーでお越しになる場合は、「西門」をご利用ください。

キャンパス内は全面禁煙となっております。  
あらかじめご了承ください。

TEL : 0798-51-8545    FAX : 0798-51-8527    e-mail : wsi-o@mail.kobe-c.ac.jp  
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 [JD館3F] URL <http://www.kobe-c.ac.jp/gender/>

**【主催】 神戸女学院大学 女性学インスティテュート    【後援】 西宮市**